

記念講演

テーマ：『あなたの子供時代は、何色ですか？』

～統合失調症の母と過ごした日々を振り返って精神科医としての葛藤と回復～』

講師：精神科医 夏苺 郁子氏（やきつべの径診療所）

講師略歴

1954年、北海道札幌市生まれ

浜松医科大学医学部卒業後、同精神科助手、共立菊川病院、神経科浜松病院を経て、

2000年にやきつべの径診療所を開設

日本精神神経学会専門医、日本児童青年精神医学会認定医、精神保健指定医

日本夜尿症学会会員、医学博士

(著書)心病む母が遺してくれたもの(日本評論社)、日本のターミナルケア(誠信書房、共著)

図説臨床癌シリーズ No28(メヂカルビュー社、共著)、ターミナルケア医学(医学書院、共著)

(論文)「末期癌患者の心理過程についての臨床精神医学的研究」

精神神経誌 第86巻第10号 昭和59年(学位論文)

日時：平成25年6月9日(日)

定期総会終了後 15:00 ～ 16:30(受付 14:50～)

※定期総会・受付 13:00 ～ ・開会 13:30 ～

場所：名古屋国際会議場 133・134会議室

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1番1号

TEL:052-683-7711/FAX:052-683-7777

参加費：500円(会員及び構成員は無料)

主催：愛知県精神保健福祉士協会及び公益社団法人日本精神保健福祉士協会愛知県支部

お問い合わせ 事務局 京ヶ峰岡田病院 PSW部 電話0564-62-1421

「あなたの子供時代は、何色ですか？」

やきつべの径診療所

夏苺郁子

私は、児童・青年期を専門に開業している精神科医です。

医師になって 30 年余り、それなりの勉強とそれなりの仕事をして、子供も大きくなったので、自宅と診療所を往復し、山のような処方箋と診断書を書く毎日を少し減らして、静かな晩年を送ろうと思っていました。

おそらく、ある程度の年齢になった開業医の心境そのものだと思います。

そんな私の日常が、5年前のある出来事で一変してしまいました。

新聞の広告で何となく見た、中村ユキさんという漫画家の「わが家の母はビョーキです」という1冊の本との出会いが、私の後半生を大きく変えたのです。

その本は、統合失調症のお母さんとの 30 年以上にわたる壮絶な生活を描いたマンガでした。

私がその本に釘づけとなり、すぐ出版社に手紙を出して作者に会わせてほしい、と懇願した理由は、私もユキさんと同じ境遇だったからです。

しかし、ユキさんと私には大きな違いがありました。彼女が漫画家で私が精神科医であるという職業の違い以前に、ユキさんは堂々と病者であるお母さんのことを公表し、私は 50 歳を過ぎた年齢になっても隠し続けていたことでした。

私の母は、私が 10 歳頃に統合失調症を発症しました。その病状は私の家族を崩壊させ、私の人格形成に大きな痕跡を残しました。「あなたの子供時代は何色だったか？」と問われれば、躊躇なく「灰色」と答えるだろうと思います。

私は成人後に精神疾患への「内なるスティグマ」に悩むようになり、様々な葛藤を経て女子大から医学部へ入り直し医師となりました。不遇な運命を見返してやりたいという半ば恨みから、医師となったのです。しかし、復讐は人を健康にはしません。私は医学部入学後に摂食障害・リストカット・大量飲酒や自殺未遂をおこし母校の精神科にかかりました。

卒業はしたものの、入局の誘いは精神科からしか来なかったため、私は精神科医となりました。

このような背景から、私はユキさんのマンガと出会うまで母のことは封印しました。精神医療に従事しながら、一番偏見を抱えていたのは、私自身だったのです。

本講演では、私自身が母の病を受容し回復していく過程を示し、「回復とは何か」「支援とは何か」を、皆様と話しあいたいと思います。同時に、家族の側から医療者の側になって、新たに直面した葛藤についても触れ、皆様と共に考えたいと思います。

その人の運命はその人のものであり、誰も変わってあげることはできません。

でも、灰色の子供時代によって色づけられた私の人生が、様々な人との出会いにより、まるで化学反応を起こしたかのように、色鮮やかになりました。

「人の力」とは、人が思っている以上に強い力を持つことを皆様にお伝えすることで、少しでも日々の臨床の糧になれば嬉しい限りです。